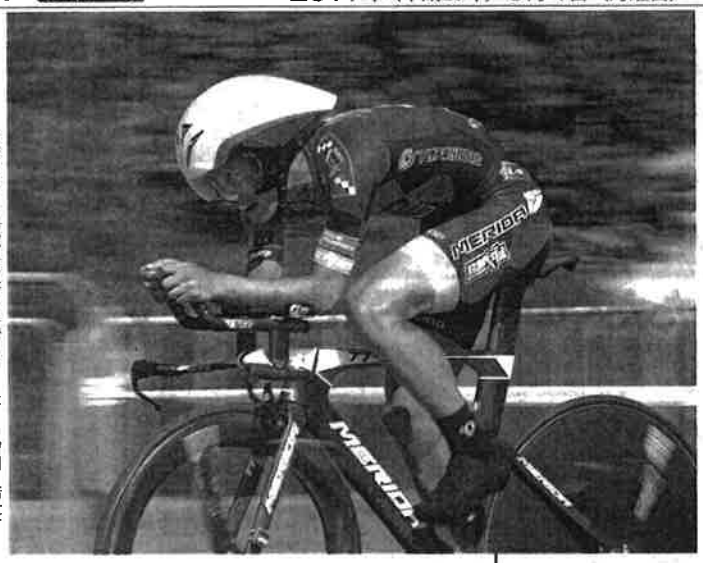
阿部（ブリッツェン）快走3位

復帰の増田 健闘4位



4位入賞し、今季のレース復帰を宣言したブリッツェンの増田＝栃木市内、鈴木久崇撮影

自転車 JPT第14戦TT

自転車ロードレースのJプロツアー（JPT）第14戦「第7回タイムトライアルチャンピオンシップ」は3日、栃木市の渡良瀬遊水地内谷中湖北ブロック周回コース（5・3㌔×3周＝15・9㌔）で行われ、県勢は宇都宮ブリッツェンの阿部嵩之が20分11秒で3位表彰台に上った。

ブリッツェンは4位に増田成幸、6位に鈴木譲とトップ10に3選手が入賞。那須ブラーゼン勢は吉岡直哉の14位、ホンダ栃木勢は19位の石井祥平が最上位だった。吉岡は個人総合で2位に浮上した。

レースは20分0秒の佐野淳哉（マトリックスパワータグ）が初優勝。女子のFクラスはライブガーデン・ビチステンレの伊藤杏菜が制した。

ブリッツェンとブラーゼンは8～10日、北海道で行われる国際レース「ツール・ド・北海道」に出場する。JPT第15戦は16日、山口県美祢市で秋吉台カルストロードレースが行われる。

表彰台に上り、笑顔を見せるブリッツェンの阿部

▽P1順位（1周5・3㌔×3周＝15・9㌔）①佐野淳哉（マトリックスパワータグ）20分0秒②西園良太（ブリヂストンアンカー）20分9秒③阿部嵩之（宇都宮ブリッツェン）20分11秒④増田成幸（同）20分13秒⑤鈴木譲（同）20分29秒⑥鈴木真理（同）21分20秒⑦吉岡直哉（那須ブラーゼン）21分25秒⑧石井祥平（ホンダ栃木）21分33秒⑨飯野智行（宇都宮ブリッツェン）21分47秒⑩下島将輝（那須ブラーゼン）21分53秒⑪加納篤（VCフクオカ）22分1秒⑫柴田雅之（那須ブラーゼン）22分1秒⑬新城銀二（同）22分8秒⑭原崇仁（同）22分15秒⑮馬渡伸弥（宇都宮ブリッツェン）22分30秒⑯西尾勇人（那須ブラーゼン）22分31秒⑰平野宏明（ホンダ栃木）22分59秒⑱水間健（同）23分18秒⑲上野裕樹（同）23分18秒

▽F順位（5・3㌔）①伊藤杏菜（ライブガーデン・ビチステンレ）7分50秒②新屋瑠里（ファントム相南）8分1秒③山口真未（Brassica）8分1秒⑤林口幸恵（ライブガーデン・ビチステンレ）8分10秒⑥新川明子（ブラウ・ブリッツェン）8分26秒⑧梅山佳子（RIDE Freaks）8分32秒⑫小田恵利花（ホンダ栃木）8分46秒

得意のTTで手応え

○…ブリッツェンの阿部嵩之が約1年ぶりのJPT表彰台となる3位。「（表彰台は）いつ以来か覚えていませんね」とおどけながらも喜んだ。

脚質は平地を一定のペースで走り続ける「ルーラータイプ」で、タイムトライアルは自らの土俵。「好きだと言いながらこれまで結果が出なかったので、一つ成長できたと思う」と自己ベストを約9秒更新した走りに手応えを口にした。

次戦は生まれ故郷で行われるツール・ド・北海道。「ここまで好き勝手走らせてもらった分、今後はチームのために走りたい」と気持ちを新たにする。その上で「3賞ジャージーのどれかを取って爪跡を残したい」と目を光らせた。

那須ブラーゼン・清水良行監督の話 タイムトライアル専門の選手がいないので厳しい結果になることは予想していた。ツール・ド・北海道に照準を合わせているので、相性の良い吉岡直哉を中心にポイントを取りたい。

ヒーロー

エース復活への序章

増田

エースにその言葉を後押しさせる手応えがあったのだろう。甲状腺疾患「バセドー病」治療中のレースで4位に入ったブリッツェンの増田成幸は「1週間後にはツール・ド・北海道、その1カ月後にはジャパンカップもある。そこに向けてコンディションを上げていきたい」。事実上の復帰宣言だった。

病気が判明しレースの現場から離れた5カ月間は「トレーニングを楽しめたし、レースに出場できないストレスもなかった」と言う。一方で、「落車してけがや骨折をした方が何倍も楽だと思った」とも心境を吐露。だが「こうしてまた自転車に乗れる体が戻ってきて、他の人には経験できない学びがあった」と晴れやかに語った。

甲状腺ホルモンの数値は「まだ不安定」という中、一時復帰のはずだったレースで表彰台にあと一歩という結果を出した。「現状のベストの走りはできたが、もう少し調子を上げられた」と、その脚には確かに感じるものがあった。

増田の復帰について、清水裕輔監督は本人の意思を尊重する考えを示し「今後の厳しいレースは彼をエースに立てる。この走りなら他の選手も納得できる」とうなずいた。

「この病気と自転車と、しっかり向き合いながら走っていきたい」と繰り返した増田。幾度の大けがの度に強くなってロードに帰ってきた男は〝不死鳥〟の異名をとる。「再スタートしたにすぎない。ここからまた活躍して、今まで支えてくれた人に恩返しをしたい」。その翼に再び力が宿った。

（鈴木久崇）